

別表第1（第5条関係）

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 20 年度

【事務事業の基本的事項】

事 務 事 業 名	冬期交通対策事業					
担 当 課 係 名	建設 課		監理 係		作成者	武藤義彦
総 合 計 画 で の 位 置 づ け	施策の大綱	歴史と自然が織り成す交流拠点のまち				総合計画の ページ
	基本計画	国道や県道、生活道路の整備				
	主要施策	除雪体制・雪対策の充実				32
予 算 費 目	一般 会計	8 款 土木費	2 項 道路橋りょう費	2 目	道路維持費	
事 業 期 間	平成 年度 ～ 平成 年度		新規／継続の区分		継続	
性 質 区 分	☒ 市民サービス ☐ 公共事業 ☐ 施設維持管理 ☐ 補助金 ☐ 内部管理					
根 拠 法 令 等						
事 務 区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務					
運 営 方 法	☐ 直 営 ☒ 直営（一部民間委託） ☐ 民間委託(全部) ☐ 補 助					

【事務事業の実施内容】

事業の対象 （誰のため・何を）	地域住民及び通行車両等
事業の目的・意図 （どういう状態にしたいのか）	市民の通勤、通学路の確保と安全を図る。
事業の内容 （どのような業務、活動を行うのか）	市道・歩道の除排雪作業、凍結防止剤散布作業及び夜間パトロールを行う。

【事務事業の推移】

	項 目			単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	
効果	活動指標	除雪延長	目標	m	14,373,810	14,521,680	14,135,490	
			実績	m	7,008,768	11,611,440	9,121,172	
			達成度	%	48.8%	80.0%	64.5%	
	成果指標	除雪出動延べ回数	目標	回	2,340	2,460	2,430	
			実績	回	1,141	1,967	1,568	
			達成度	%	48.8%	80.0%	64.5%	
投下コスト	項 目		総事業費		18年度決算額(千円)	19年度決算額(千円)	20年度決算額(千円)	
	事業費（人件費を除く）(A)				142,111	195,146	188,044	
	人 件 費 (B)		—		5,183	5,327	4,280	
	職 員 数		—		0.66	0.66	0.54	
	職 員 平 均 人 件 費		—		7,853	8,071	7,925	
	(A) + (B) 投下コスト				147,294	200,473	192,324	
	財源内訳	国 庫 支 出 金						
		県 支 出 金						
		地 方 債						
		そ の 他				1,053	2,326	1,169
		一 般 財 源				146,241	198,147	191,155
	単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—		21	17	21
市民1人当たりのコスト(円)		—		4,619	6,377	6,195		

【事務事業の今までの成果】

除雪路線の組み替え等により、作業時間の短縮と除雪作業の効率化を図っている。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	民間委託が大半を占めているがオペレーターの確保に困窮（季節雇用の扱い）している。
事業に対する市民の意見 （事業に対する期待、要望、苦情等）	降雪量により作業終了時間が一定しない等の苦情がある。

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性	判 定 に 至 っ た 理 由
A	A 現状のまま継続（実施）	作業の効率化を図っているが、まだ改善の余地がある。 （除雪路線見直しや、老朽化した除雪機械の更新による作業能率の向上で経費節減を図る。）
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
B 2	冬季交通網の確保は市民生活に直結する重要な事業であり、引き続き改善点への対応を図りながら、計画的な事業推進を行うべきと考えます。

